

# 市議会だより

発行 五條市議会 編集 議会広報編集委員会  
平成 25 年（2013 年）11 月 30 日

# GOJO

No.49



（写景会 北澤秀毅氏 大澤寺）

## 五條市議会第3回

### 9月定例会の概要

平成25年第3回9月定例会は、9月2日に開会し、初日には、会期を20日までの19日間と決定し、市長から市政の報告と提出議案の説明並びに教育委員会委員長から教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告を受けました。

本定例会には、五條市指定管理者候補選定委員会条例の制定を始め、五條市起業家支援施設条例の制定などの条例案件、平成25年度五條市一般会計などの補正予算、平成24年度五條市一般会計などの歳入歳出決算認定、五條市教育委員会委員の任命、五條市政治倫理審査会委員の委嘱、人権擁護委員の候補者推薦及び専決処分の報告等が市長から提案されました。

また、議員からは五條市議会議員の定数を定める条例及び五條市議会委員会条例の一部改正と意見書を提案し、慎重な審議とともに6日には6人の議員が一般質問を行い、9月19日に閉会しました。

| 目次         |        |
|------------|--------|
| 一般質問       | 2～4ページ |
| 意見書ほか      | 5ページ   |
| 表決結果と議決結果  | 6～7ページ |
| 議案書等の貸出しほか | 8ページ   |

# 一般質問

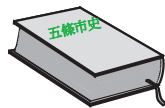
定例会では、議案に関係なく市の一般事務について質問することができます。これを一般質問といい、以下質問順にその概要をまとめています。

## 山口耕司 議員

### 新たな市史の編さんについて

**山口** 五條市史は昭和62年に発行され、現在26年が経過し、西吉野村史は発行50年を経過、大塔村史は34年が経過されたもの。

合併から8年が経過し、また社会的にも大きく変わりとつある今、また一



昨年の紀伊半島大水害もあり、後世に残していかなくはならないときにきているのではないか。

**教育部長** 本市の歩みや、歴史・文化に関する最新の調査・研究成果等を記録し、後世に伝えていく新しい市史の必要性については認識しており、今後、新たな市史の編さんについては、総合的に検証し、その方向を考えてまいりたい。前回の事業は、昭和57年度から6年間にわたり行われ、教育委員会事務局社会教育課が担当し、市史編さん委員会の監修の下、50名以上の調査員に、調査・執筆をお願いした。

**山口** 職員は、旧の体制、合併以前の意識で職務を遂行されているわけではないが、歴史を振り返り、

過去を記録することは、先人を顕彰するためだけでなく、これからのまちづくりを考えるために、新市史は不可欠である。

現在の成り立ちを確認するといふ将来に向けた基礎作業が市史の編さんの意義があると思う。職員がこうした意識の中でいろんな事業計画に当たらなければならないと考える。

新たな市史の編さんについて市長の見解を求める。

**市長** 財政的な面やほかの事業などとも考慮しながら、一つの節目である市制60年に当たる平成29年度をめどとして、編さんに着手できるように取組を考えたい。

他に次の質問をしました。

○地域・家庭における防災力の向上及び災害時要援護者の避難対策について

○レアメタル等の回収・リサイクルの取組について

○こころの体温計及び認知症チェックシートを市ホームページに掲載することについて

○地域公共交通の今後の取組について

## 益田吉博 議員

### 五條の歴史・文化について

(1)小・中学校での取組について

**益田** 今、小・中学校で歴史・文化に取り組んでいることを小学校の校長先生から聞いて感動したが、教育委員会の歴史・文化に対する教育方針と総合学習についてお聞かせ願いたい。

**教育部長** 五條市の歴史・文化を学ぶことは、地域を愛し、大切にしようとする心を育むためにも大変重要で、五條市教育振興基本計画の具現化に向けた目標の一つに「地域の文化を尊重するふるさと学習の推進」を掲げ、様々な取組を推進しているところである。

**教育長** 総合的な学習という部分については、それぞれの特色化から各学校で計画し、総合的な学習の時間として組み立てており、教育委員会はその概要と総時間数を把握している。また、地域の中で地域と地域の人の力を借りて地域とともに学校を作っていくという仕組みの中で行われる「地域パートナーシップ事業」というものが今年からスタートしており、五條市の全ての学校がその事業の中に入っている。



(2)市民に対する周知について

**益田** 郷土愛について市民に対する啓発という点ではどうか。

**教育部長** 市民が歴史・文化の営みに触れ、理解を深めることは、豊かな心と郷土愛の醸成という観点から非常に大切であると考えている。教育委員会としては、今後市民の文化的な活動を支援するとともに五條の歴史・文化を周知し、その意義の啓発に一層努めてまいりたい。

(3)新町通りの無電線化について

**益田** 新町通り無電柱化の質問をするのは3回目になるが、無電線化に替わった今の進捗状況をお聞かせ願いたい。

**都市整備部長** 無電柱化については、昨年10月の基礎調査報告書では、現時点において電線の完全地中化は非常に困難との見解であった。裏配線、軒下配線の併用などあるが、いずれの施工方法も企業者との費用負担の問題、堤防区域の占用、地元との調整などの課題が考えられ、これらを解決する具体的な検討が必要であり、本年度、住民のアンケート調査を実施して、無電柱化による効果や新町通りの景観の在り方などまち全体の意向を調査し、その結果を踏まえて今後進めてまいりたい。

## 福塚 実 議員

### 五條市の耕作放棄地の現状と有効利用について

#### 福塚

五條市も少子高齢化が進む現在、農業面においても例外なく高齢化と後継者不足で、増加傾向にある耕作放棄地が原因で病害虫の繁殖、鳥獣害の拡大、廃棄物の不法投棄などが懸念され、このような諸問題を防ぐためにも農地環境を荒らすことなく整備、維持する必要があるが、現在五條市にはどれだけの耕作放棄地があるのか。また、それらに対する市の取組や国の耕作放棄地再生利用対策などについてお聞きしたい。

#### 産業環境部長

農林業センサスから五條市の農地面積は3,060haで、遊休農地と耕作放棄地面積は2010年は241haで全体の7.8%となっている。平成21年9月に五條市地域耕作放棄地対策協議会を設立し、奈良県担い手・耕作放棄地対策協議会と連携し、農地の有効活用の観点から農地の貸し借りや再生事業、新規就農者の育成・確保等の対策を講じている。また、耕作放棄地の解消対策として、平成24年度から国の

施策で「人・農地プラン」が打ち出され、地域ぐるみで農地を守っていく取組を推進している。みどり園では、上野公園近くの遊休地を利用した「ひまわりプロジェクト事業」で耕作放棄地の解消を図っている。



### 五條市の国民健康保険の現状と今後の方向性について

#### 福塚

五條市の国民健康保険に加入されている方の状況や滞納者の対応等について伺う。

#### すこやか市民部長

加入者の状況は、平成24年度11,402人で滞納世帯数は、791世帯となっている。滞納者への対応としては、一年を通して納税相談を実施しており、もしもの病気のときは医療機関の診療を受診できるように一箇月の被保険者証を発行して、更新の際に誓約書に基づき保険税を納付していただいている。

また、平成24年度において税率改正を行ったが、今後、平成29年度をめどに奈良県において統一化という話があるため、それまでの国民健康保険事業を安定運営するため国民健康保険運営協議会で今後の検討をしてまいりたい。

## 吉田雅範 議員

### 有害鳥獣対策と市政の報告について

#### 吉田

農作物の被害はいまだ絶えない現状であり、農家の営農意欲の低下や被害の拡大を防ぐための本市の取組について伺う。

#### 産業環境部長

平成21年度に策定した五條市鳥獣被害防止計画に基づいた事業の主なものとして、捕獲おりを設置して自治会監視の下、捕獲、駆除処理を行う個体数調整と金網柵、ネット柵、電気柵による被害防除を行っている。

#### 吉田

市政の報告に「捕獲したイノシシや鹿肉を地域の産物として捉え、処理施設とともに加工施設の建設を目指しております。」とあるが、候補地は決まったか。

#### 市長

本来、捕獲された鳥獣は処理施設で処理すべきであるが、本市ではその施設がなく国に処理施設建設の補助金を要望しており、本年6月に補助金交付の内定をいただいた。処理施設とともに加工施設も併設してジビエ肉の販売を考えており、建設場所の選定については、西吉野地域が市全体の65%を占めていることから閉館中の

こんびら館の駐車場を候補地として地元5自治会に説明したが意見要望があり他の場所への検討をしている。柿の生産量日本一のまちとしてこの産業発展のためにもより一層鳥獣駆除対策を強化する必要があるから、地元の皆さんの御理解を得ながら幅広い形の中で今後検討してまいりたい。

### 災害対策と災害時の備蓄食品について

#### 吉田

地域別ハザードマップ作成の進捗状況及び防災非常用食品の備蓄量等について伺う。

#### 危機管理監

五條市洪水・地震ハザードマップは、防災や減災に関する最新の情報を備えた冊子にハザードマップをセットして、五條市を13地区に分けて見やすく指定避難所、消防施設、防災倉庫等を記載した地区別ハザードマップを今年度中に作成する予定である。市の防災倉庫20か所に非常食として五目御飯、アルファ米、非常食パン、飲料水を備蓄しており、飲料水については民間の流通業者との協定に基づき優先的に供給を受ける間接備蓄も実施している。今後、主な避難所などに備蓄食品の配置を進めてまいりたい。



## 藤富 美恵子 議員

### ゼロ歳から中学校3年生までの医療費の無料化について

**藤富** 現在、ゼロ歳から小学校6年生までの入院費については、昨年の平成24年8月から無料化になったが、通院費については無料化になっていない。

通院費を無料化にすることは、市の財産負担が大きいためから困難であるとの市長の考え方であるが、私は、子育て世代の経済的負担を少しでも軽くしていただきたいと思うのである。

五條市も2,800万円、市が負担すれば、通院費が無料となり、橋本市と同じように小学校6年生までの医療費（通院費・入院費）の無料化が実現する。

市長は、2,800万円掛かるからと通院の無料化を渋っておられるが、若い世代を五條市に呼び込むための先行投資と考えていただきたい。そして、ひいては五條市の活性化にもつながる。私は、五條市にお金がないというのであれば、他を削ってでも、小学校6年生までの通院費の無料化を実現し、市長の公約を果たしていただきたいと思う。

市長の任期の残りは、あと1年と6か月である。

要は、市長に、小学校6年生までの通院費を無料化にする気があるのか！なのか！である。

「ゼロ歳から小学校6年生までの医療費の無料化」は実現するか。いつになるか。

**市長** 市長会及び町村会から、中学校3年生までの医療費無料化について助成範囲拡大を県に対して要望しているところである。県では助成拡大に向けて、検討している状況である。

その結果、県が乳幼児医療費助成制度の拡大を実施しなかった場合は、五條市独自で子供医療費の助成範囲拡大について実施できるよう取り組んでまいりたい。

**藤富** 今回の私の提案は、「ゼロ歳から中学校3年生までの医療費の無料化」である。県が検討中というところであるが、県において実現できなかった場合は、五條市単独で実施できるよう、積極的に取り組んでいただきたい。また、受診した際の病院の窓口の支払方法についても、立替払をしなくてもいいように、今後也更に県等に働きかけをしていただきたい。



## 大谷 龍雄 議員

### 大塔町の救援及び復旧、復興の現状とこれからの対策について

**大谷** 9月4日現在、仮設住宅で頑張っておられる方は大塔住宅で11世帯22名、五條住宅で26世帯43名である。警戒区域については平成24年2月に解除されているが避難指示区域は辻堂地区、避難勧告地区は飛養曾地区、引土地地区、赤谷地区及び辻堂地区の一部で、復旧工事については、国土交通省は赤谷地区、清水地区で平成28年完成見込み。林野庁は辻堂地区、赤谷B地区で平成27年完成の見込み。奈良県は宇井地区、辻堂地区、惣谷地区で、宇井地区は平成26年完成の見込み、辻堂地区は平成25年度末完成の見込み、惣谷地区は平成26年完成見込みで、以上が現在の状況であるが、安全第一で確実な工事をできるだけ早く目指してもらうことが必要ではないか。大塔町の復旧工事が完了後は大塔町内で働きたいとアンケートに答えている方もおられる。既に市長等理事者が作成した復興計画に基づき大塔町の皆さんの意見をよく聞きながら仕事を確保していくことが必要と考えるが、具体的な提案

としては、大塔町の自然から採れるワラビ、ゼンマイ、スカンボ、山芋、山栗、葉っぱ、ワラビ栽培、イノシシ、鹿、アユ、アメノウオ、ウナギ、豊かな小川を利用した小水力発電等を生かした仕事、産業を大塔町の皆さんの意見のもと検討してみるのもいいのではないかと、**大塔支所長** 復旧工事については、地域住民の意見、要望等を踏まえ、奈良県及び関係各課と協議をし、連携を密にしながら対応していく。復興については、復旧工事が進むことにより林業や観光行政も進みつつある大塔町の山や川を生かした産業の開発や小水力発電等については検討していきたい。

